

ICTのアンケート結果

3月から5月中の休校中のICT・インターネットを利活用した学校の取り組みについてのアンケート

この調査の目的は、次の2点です。

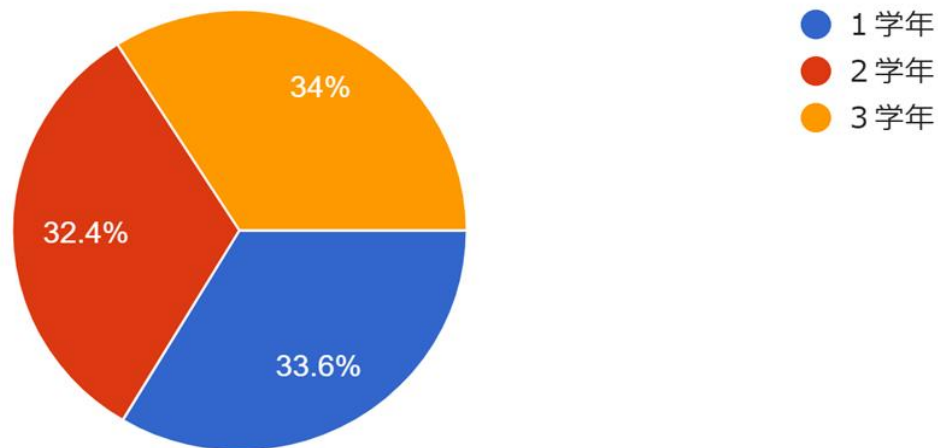
- ①本校の「臨時休業中における学習支援（～5月下旬、YOUTUBEでの動画配信）」について成果と課題をまとめ、今後、万一同様の事態が起こった際の参考にする。
- ②生徒自宅のPCやネットワーク環境を調査し、令和3年4月に整備される予定の1人1台パソコン端末を効果的に活用する方法を考える。

※保護者の皆様におかれましては、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。

分析者 情報主任 森澤貴之

お子様の学年を教えてください。

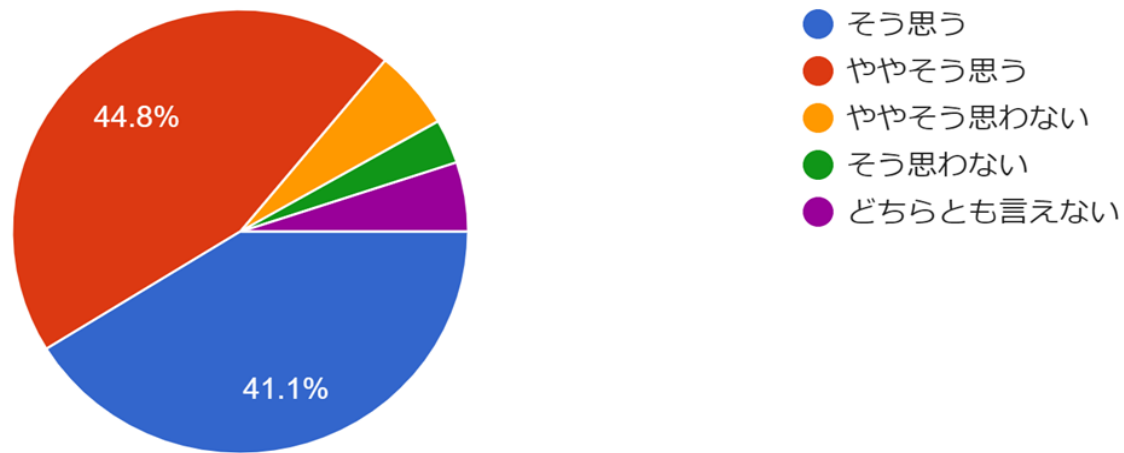
435 件の回答



本校保護者435名から回答を得ました。

Q 1. お子様には、本校が休校期間中に動画配信を行った学習が有効であったと思いますか。

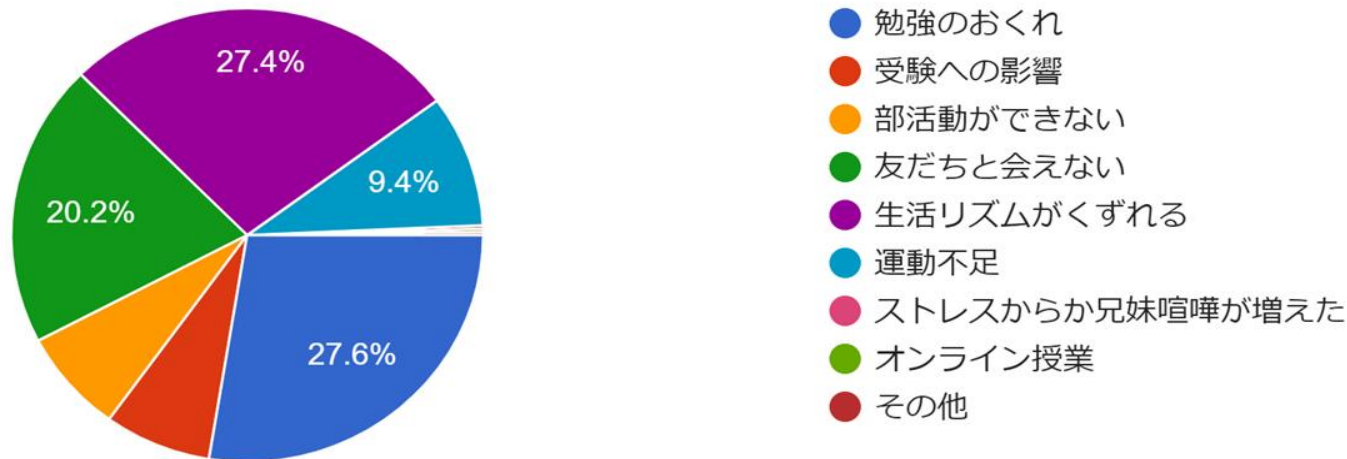
435 件の回答



本校の保護者の85.9% (374件) は、「そう思う (179件)」、「ややそう思う (195件)」という回答結果が得られた。多くの家庭が休校期間中に動画配信を行った学習が有効であったと肯定的な受け止め方をしていると分析することができる。その一方で、8.9% (39件) 「ややそう思わない (5.7% 25件)」、「そう思わない (3.2% 14件)」と回答している。やはり、動画配信は「一方向」での学びのため、生徒の学びには対面形式等での授業や生徒の学び (双方向性や生徒同士の対話) が一番であると考えているということがこの結果の裏にはあるのではないかと推測することもできる。また、動画での学びは初めての試みであったことから十分に学びを生かすことができたかどうかについても今後検討をする必要があると考えている。

Q2. お子様が、休校によって困っていたことを一つあげるとすると次のどれですか。

435件の回答



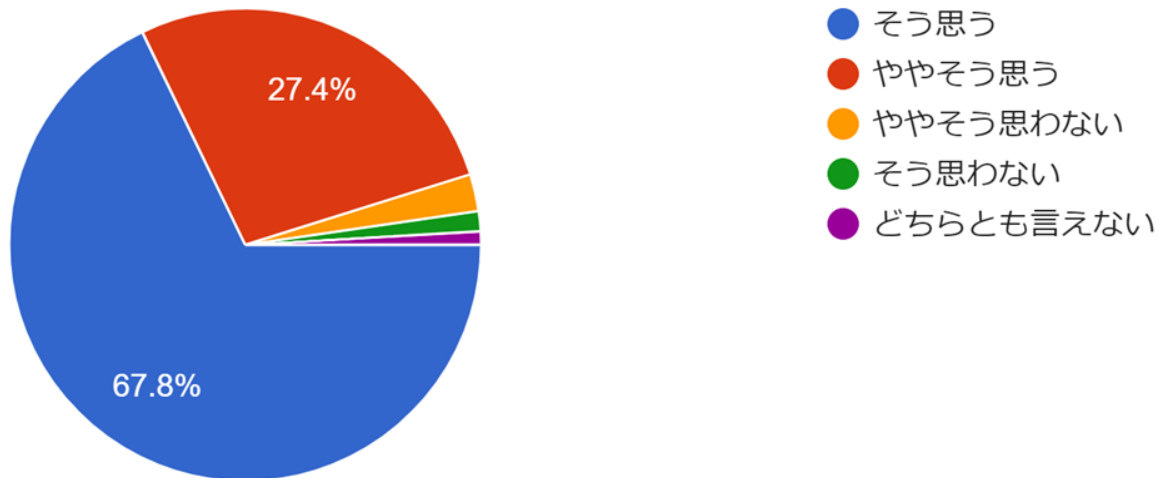
本校保護者が休校によって困っていたことは、「勉強へのおくれ（27.6% 120件）」、「生活リズムの崩れ（27.4% 119件）」、「友だちと会えない（20.2% 88件）」この3項目の回答の結果が高いことが明らかとなった。特筆すべきは、困ったことの中「オンライン授業」と回答した保護者がほとんど居なかった点である。このことから概ね動画視聴はスムーズに行うことができたことを示しており、大きな成果であると考えられる。本校で次回同様の休校が起こった場合の対応は、「Google MeetやZoom等のビデオ会議システムを活用した双方向授業等で生徒の理解度を把握して進度に反映する取り組み（勉強への遅れの改善策）」、「オンライン授業の開始時間などの日課を学校での通常日課と同じようにしていくこと（生活リズムの崩れにおける改善策）」、「G Suite for EducationのClassroom等を活用して生徒同士でのつながりを感じられるような機会の保障（友達と会えないに対する改善策）」、「保健体育の動画配信の授業に加えて、感染症対策をしながら運動できるメニューを示し確認するなどの取り組みを+αで取り入れる（運動不足に対する改善策）」が挙げられると考えている。

Q2で「その他」を選択した方は、困ったことを記述してください。

- ・試験範囲がどのようになるか不安だった。
- ・毎日夜遅くまで起きて、次の日は遅く起きるの繰り返しだったから。
- ・時間割や課題の提出期限が、無い、あるいはあってもかなり先だと切迫感がゼロでした。
- ・オンライン授業だと、目が疲れ、ストレスが溜まる。
- ・親の監視から逃れ緊張感が無くなり生活が乱れたり、環境に甘えて勉強せずに成績が悪化する。

Q 3. お子様は、休校期間中に学校からのYOUTUBEの動画課題に取り組むことができましたか。

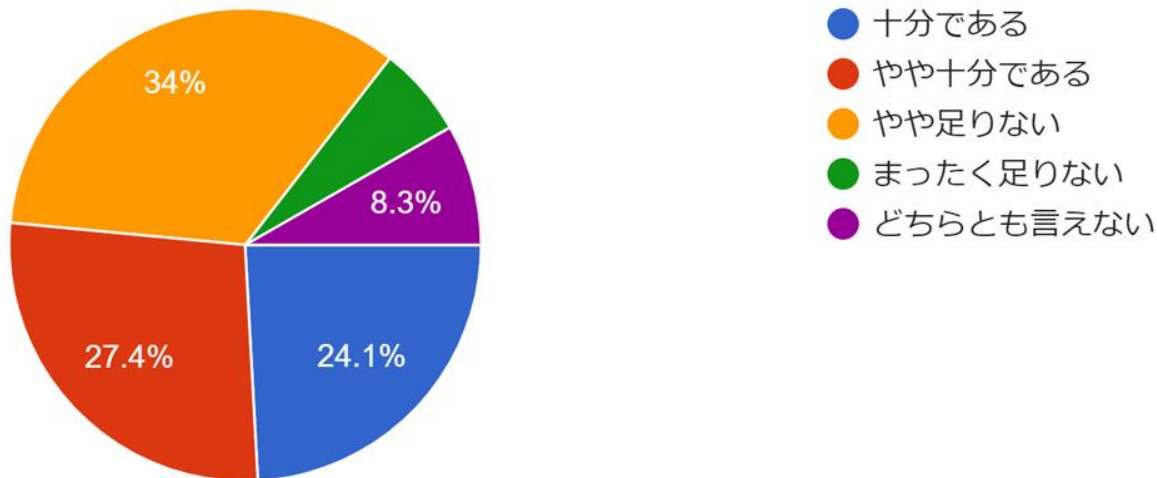
435 件の回答



本校の保護者の95.2% (414件) は、「そう思う」、「ややそう思う」という回答結果が得られた。多くの家庭が休校期間中に学校からのYOUTUBEの動画配信課題に取り組むことができた肯定的な受け止め方をしていると分析することができる。その一方で、3.9% (17件) 「ややそう思わない (2.5% 11件)」、「そう思わない (1.4% 6件)」と回答している。今後は、YOUTUBEのような一方向の学びでは、自らが学習に主体的に取り組む姿勢が求められると考えるため、家庭でも日課で決められた行動をできるような方法を考えたり、学びに対して「受け身」の姿勢にならないようにする工夫を考えていきたい。

Q 4. お子様にとって、休校期間中に動画配信の頻度（回数）は適切であったと思いますか。

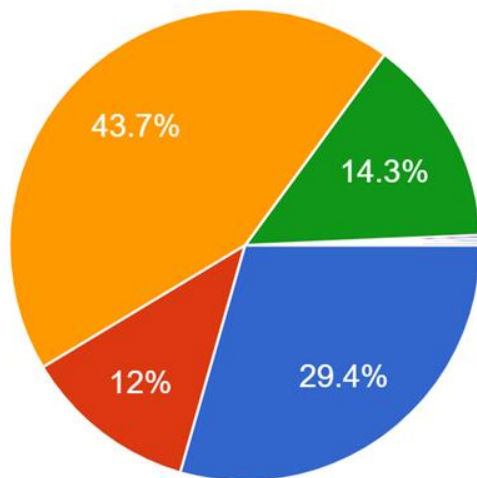
435 件の回答



本校では、休校期間中に約1ヶ月にわたって1教科週に1~2本の動画配信を行ってきました。動画配信の頻度は、51.5%（224件）の保護者は、「十分である（24.1% 105件）」、「やや十分である（27.4% 119件）」と考えることが明らかとなった。回答で最も多かったのは、「やや足りない」で34%（148件）であった。本校の保護者は、学びに対して関心が高く、学びの遅れが進学等に影響が出ないかどうかを心配する声が多く聞かれた。そのため、学びを保障するために、動画配信を行う際には動画作成に関わる教員の負担も考慮しつつ良い形は何なのかということを経験していきたい。

Q 5. お子様が学習に使う端末は本人専用ですか。

435 件の回答



- 子ども専用の携帯電話やタブレット等
- 子ども専用のパソコン等
- 保護者のパソコンを共有
- 保護者の携帯電話やタブレット等を共有
- 子ども専用の携帯&家族共用のパソコンの両方
- 家庭用、タブレット端末
- スマホは本人専用、パソコンは保護者用

生徒が学習に自由に使える端末の所有割合は、41.4%であり、多くの家庭が保護者所有の端末を用いて学びを行っている（58.6%）現状が明らかとなった。動画配信等の学びを考えた際に重要になってくることは、「学習者用のICT端末」が完備されることである。現在、コロナ禍の状況も後押しとなり学校におけるICT環境整備が急速に進んでいる。近い将来一人1端末の配備が整ってくれば端末の問題は解決されると思うが、その使い方の指導を学校と家庭が一体となって行っていくことが必要になると考える。また、中学生の発達段階を考えたときに家庭の方針で子ども専用の端末を持たせていないという家もある。ICTを活用した学びに対して慎重な姿勢の家庭に対して、ICT端末を用いた学びを進める上で感じている不安などにも丁寧に耳を傾けて行く必要があると考えている。

Q 6. お子様は、動画学習を行うとき家庭でインターネットへどのように接続しましたか。

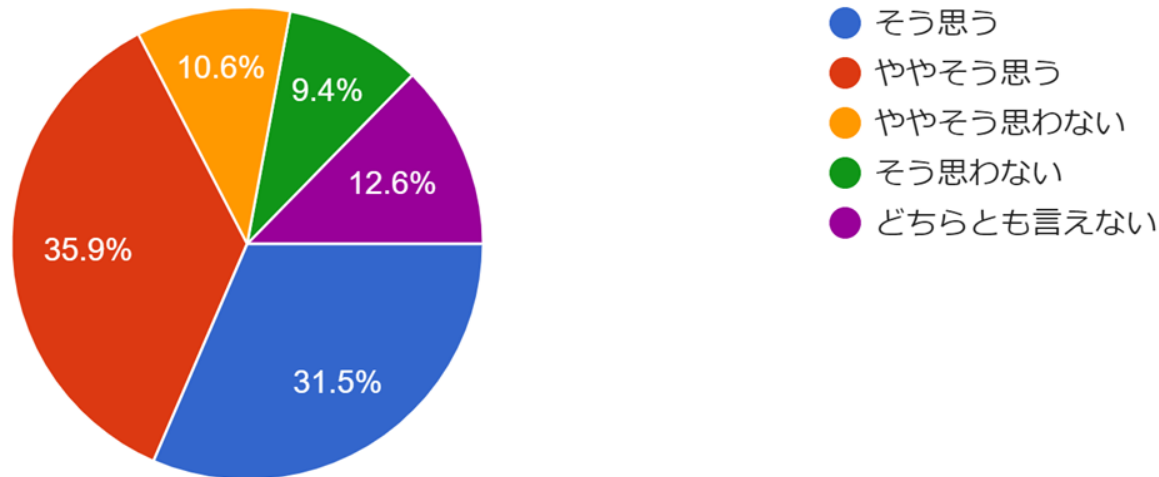
435 件の回答



本校の保護者の96.6%（420件）は、「家庭内にWi-Fi環境（無線環境）で接続した」と回答した。有線環境で接続したという回答も合わせれば、99%の家庭にもものぼる。4月に本校で実施したインターネット環境についてのアンケート結果の際には、92%の家庭が環境が整っていると回答したが、この1年間をかけてほぼすべての家庭でインターネットの環境が整ったということがわかる。一方、携帯電話の電波でも動画配信等の学びをすることができるが、通信量が膨大になりそれに伴い使用料金が高くなることが想定される。本校としては、引き続き来年以降も家庭でのインターネット環境を整えていただけるようお願いをしていきたいと考えている。

Q 7. お子様は、学校が再開した後もタブレット等を活用した学習環境や利用が必要ですか。

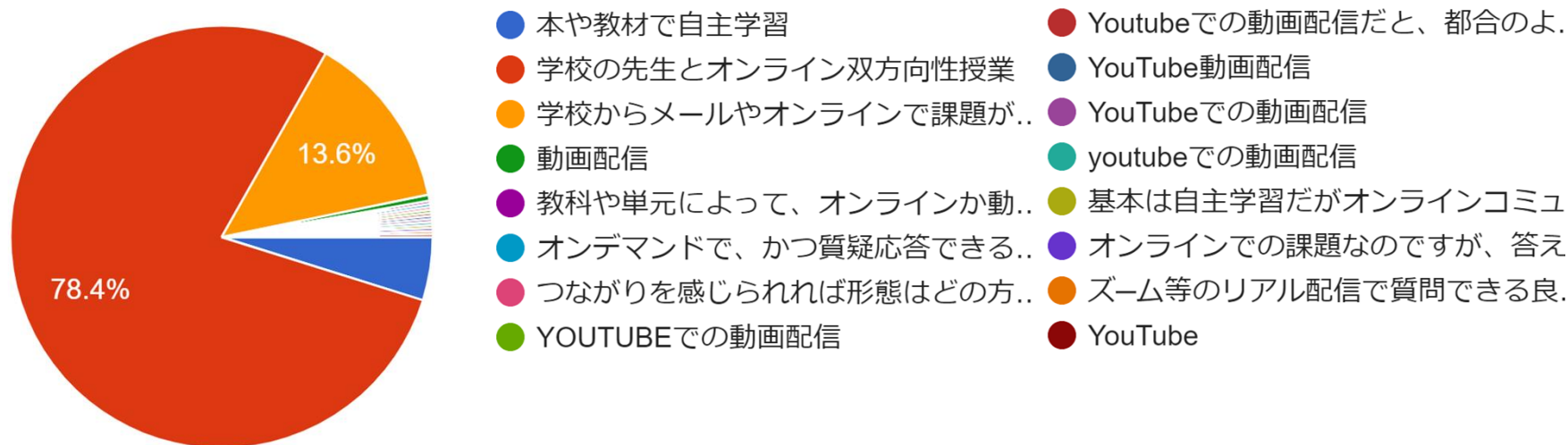
435 件の回答



本校の保護者の67.4% (293件) は、「そう思う (31.5% 137件)」、「ややそう思う (35.9% 156件)」という回答結果が得られた。学校での学びの中心は対面形式での学びであるが、多くの家庭がICT端末を併用したハイブリットな学びを望んでいるという状況も明らかとなった。本校としてもそのニーズに応じていく考えである。今後は情報の教育化が一つのキーワードになってくると考えられる。情報の教育化の一つに「時間的・空間的制約を超える」とあり、学校での学びを家庭でも継続することにもつながると考える。本校でも来年度以降も様々なツールを用いて生徒の学びを支援していきたいと考えている。

Q 8. 休校期間中でのもっとも望ましい学習形態は以下のどれですか。

435 件の回答



本校の保護者の78.4%（341件）は、休校期間中でのもっとも望ましい学習形態は「学校の先生とオンライン双方向性授業」であると考えていることが明らかとなった。次いで、「学校からメールやオンラインで課題が届く（13.6% 59件）」、「本や教材で自主学習（4.8% 21件）」であった。休業中は、学校として何らかの形で生徒に課題を配布してそれを提出させるなどの双方向のやりとりをしていくことが必要であると考えられる。